

社内ITリテラシーや技術力を 上げることはモチベーションの 向上に役立つ

～情報システム管理者の教育～

プリンガ 社長

中川 富士子 なかがわ ふじこ



個人情報保護法が定着し、企業の規模によらず、個人情報を管理している企業はその責任を問われる時代になった。

小売店や飲食店ではポイントカード発行による顧客の囲い込みが激増し、地方においてもインターネットによる通信販売で業績を伸ばしている企業は多いが、これらの中小企業の多くがどのように個人情報のデータをどのように管理しているかはあまり知られていない。

管理部門あるいは多少パソコンに詳しい社員が兼任していることが多く、大量の顧客データの管理方法も、担当者個人に委ねられているケースも少なくない。情報セキュリティという点においてはかなりのリスクがあると考えられる。

会社の重要なデータをどう安全に管理するか、特にそれらのデータがサーバーや個人のパソコンなどのファイルに管理されている場合、システムのセキュリティをどう強化するかは、規模の大小を問わず企業の重要な課題である。

弊社では、このような企業に対してITインフラの整備から管理者の方の教育までそれぞれのニーズにお応えする形でご相談に乗っているが、経営者のITに対する理解が不足していることも多く、リスクに対する危機意識が低いことから情報システムの管理コストを出来るだけ抑えがちになる傾向がある。

これは情報システム投資に対する効果が図りにくく、即効的な利益を生まないことから投

資に対する優先順位が低くなってしまっていることが原因の一つとして考えられる。

特に従業員五十名以下の企業においては規模的にも専任の管理担当者を置くほどではないことから大半は前述のように他の業務との兼任でありITリテラシーが高くない場合も多く、安全にシステムを運用するためのノウハウが不足しがちである。

元来リスク管理に対する費用は企業におけるコストと考えられがちであるが、万が一大きな情報が消滅したり、外部に流出したりした場合の損害額を考えると売上規模が少ない企業ほど万が一の時のインパクトは計り知れないものがある。



情報システム担当者向け研修